

①改定版第1次田原市総合計画「施策評価シート」

I 施策の体系

施策コード	0501	施策名	学校教育の充実	主担当課	教育総務課
分野	教育文化			関係課	高齢福祉課、学校教育課
施策の目指す姿	○学校、家庭、地域、団体・事業者など市民総参加による「ふるさとに学ぶ教育」を推進し、子どもたちが社会の中で人々とかわりを持ちながら成長することで、課題を解決していくことができる力を養います。 ○適正な学校規模を確保するとともに、十分な安全性、防災性、防犯性を備えた教育環境の整備を目指します。 ○安全でおいしい給食の提供と地元農水産物の活用による地産地消の推進を目指します。 ○田原福祉専門学校において、福祉分野で活躍する人材の育成を目指します。				

II 「主な取組（基本事業）」に対する評価

基本事業	内部評価	取組内容 (これまででできたこと・してきたこと)	課題 (できていないこと・今後しなければいけないこと)
1 教育環境の整備	B	○田原市教育振興基本計画を策定し、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、教育環境向上のための施策を総合的に実施した。	○少子化による児童生徒数の減少や社会情勢の変化に対応した施策を進めていく必要がある。
2 教育の充実	B	○ふるさと学習や国際理解教育、ICT機器の活用等を通して、広い視野を持って社会に貢献することができる人づくりを進めた。	○ICT機器の活用等により、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することで「主体的・対話的で深い学び」を実現していく必要がある。
3 学校施設の充実	B	○学校施設の長寿命化計画を策定し、建設から40年以上経過し老朽化している施設の長寿命化改修を行った。 ○健康的かつ安全・安心の学校機能を確保するため、普通教室や特別教室に空調設備を整備するとともに、トイレの洋式化を含むバリアフリー化を進めた。	○学校施設の改修には高額な費用を要するため、補助金等の財源を積極的に確保し、計画的に事業を推進する必要がある。 ○国の小中学校施設整備方針では、屋内運動場へも空調設備を整備することになっており、立地条件、財政状況等を踏まえ、今後検討していく必要がある。
4 学校給食の充実	A	○地元食材を中心に給食の提供により、食育の充実が図れた。 ○OPFIにより給食センターを整備し、平成26年度から保育園・小中学校の給食を市内1か所のセンター方式で統一し、運営を開始した。 ○豊橋特別支援学校分教室、田原市児童発達支援センターへの給食提供を開始した。	○給食での地元食材の利用促進と安全・安心でおいしい給食の提供を継続する必要がある。 ○人口減少・少子化に伴う給食センターの余剰能力について検討していく必要がある。
5 後期中等教育の充実	A	○田原市立中学校を卒業した学業・人物ともに優れ、かつ、経済的に困窮した生徒に対し、奨学金を支給し高等学校への就学の支援を行った。 ○高等学校等にバス通学する生徒に対し、通学定期の3割の助成を実施し、通学の支援を行った。	○田原市内の高等学校全てにおいて定員割れが起きている状況を受け、高等学校側と連携し、市内の高等学校の教育の充実に資する施策を講じる必要がある。
6 高等教育の充実	E	○学生の確保を図るため高校訪問や進学情報誌への掲載を行うとともに、地域に開かれた福祉教育を目指し公開講座等を開催した。 ○令和3年度から田原福祉専門学校の運営を社会福祉法人福寿園に移管した。	○学校運営を支援するため、職員の派遣と運営補助金の交付を継続する。

【内部評価の基準】
 「A」：計画通り進行
 「B」：概ね計画通りだが、一部未達成
 「C」：あまり達成できていない
 「D」：全く達成できていない
 「E」：完了・廃止（現在までに完了・廃止している場合）

III 施策の目標指標の達成状況

成果指標	H23	R4 (目標)	R4 (実績もしくは見込)	成果分析・評価など
1 小学校適正規模学級実現率	66%	100%	99%	国の基準に従って学級配置を行った。亀山小学校で複式学級が行われることとなり、目標値を下回った。
2 中学校適正規模学級実現率	90%	100%	100%	国の基準に従って学級配置を行った。
3 中学校適正規模学校実現率	71%	100%	100%	中学校の統廃合により適正規模を維持している。
4 学校経営評価において良好な学校運営ができているとする割合	100%	100%	100%	校長を中心に学校運営に努力した。
5 不登校児童生徒が在籍していない割合	99%	100%	98%	コロナ禍で生活パターンが変わり不登校が増加した。
6 中学校一クラス当たりの英語の授業におけるALT参加の授業の割合	21.6%	20%	17%	交流ALTを曜日ごとに配置したが時間数は減少した。
7 残食率	3.2%	3%以下	2.6%	新型コロナ等による欠席者の増加に伴い、近年残食が増えている。
8 児童・生徒・教職員の健康診断実施率	100%	100%	100%	全ての児童生徒及び教職員の健康診断を実施した。
9 田原福祉専門学校出願者数	52人	50人	29人	少子化や高学歴化により、介護を選択する日本人学生が減少した。

IV 市民評価（市民意識調査結果）

	H25	H28	R1	R4	増減（H25→R4）
満足度	0.08	0.03	0.12	0.16	+0.08
重要度	0.69	0.67	0.69	0.77	+0.08

※回答結果を点数化（2点、1点、0点、-1点、-2点）して、その合計値を回答総数で割り、それぞれを点化。

V 次期計画に向けた総括評価

達成状況	○小中学校の再編について、学校・地域からの要望を取りまとめ、検討委員会において協議を行い実施した。 ○学校施設の長寿命化計画を策定し、建設から40年以上経過し老朽化している施設の長寿命化を図り、必要な施設整備を行った。 ○ふるさと学習、国際理解教育やICT機器の活用等により、広い視野を持って社会に貢献することができる人づくりを進めた。 ○OPFIによる民間事業者を活用した給食運営を行ったことで、地産地消の推進など給食の充実を図ることができた。
今後の課題	○小中学校の適正配置について、少子化による授業等への影響、学校・地域からの要望を勘案し、適切に対応していく必要がある。 ○学校施設の長寿命化計画について、施設の状況、社会情勢の変化、財政的見通し等を勘案し、定期的に見直しを行い進めていく必要がある。 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICT機器等を活用した取り組みの改善を図る必要がある。

①改定版第1次田原市総合計画「施策評価シート」

I 施策の体系

施策コード	0502	施策名	生涯学習の充実	主担当課	生涯学習課
分野	教育文化			関係課	図書館
施策の目指す姿	○人づくりを生涯学習の視点から捉え、「学びを通じた絆づくり」や、市民が主体的に生涯学習に取り組み、その学習の成果を地域社会全体に還元できる地域づくりを目指します。 ○自立を助け、人がつながる機会を提供し、市民が読む楽しみ、学ぶ喜びを感じることができる図書館づくりを目指します。				

II 「主な取組（基本事業）」に対する評価

基本事業	内部評価	取組内容 (これまででできたこと・してきたこと)	課題 (できていないこと・今後しなければいけないこと)
1 生涯学習活動の推進	B	○「生涯学習振興計画」に基づき、各種講座の実施、生涯学習情報提供や生涯学習団体への補助金交付を行った。 ○令和元年度にふるさと教育センターを開設し、「ふるさとに学び 人が輝く 田原の人づくり」を基本理念として、ふるさと教育の実施体制の充実に努めた。	○「生涯学習振興計画」の重点目標である①学ぶ機会の充実、②学びを活かす機会の充実、③学びを支える環境の充実について、DX推進により、それぞれがより充実するような仕掛けが必要である。
2 生涯学習施設の充実	B	○計画的に施設の長寿命化改修を行い、必要な施設を維持していくために「田原市社会教育施設等長寿命化計画」を策定した。	○今後も、計画的に施設の長寿命化を進めていくとともに、施設の劣化状況を定期的に確認して予防保全に努めていく必要がある。
3 図書館の充実	B	○「まち*ほん生涯読書振興計画」を策定し、学校や地域との連携・協働での読書振興を進め、EBPMによる改善を続けている。 ○高齢者や障害者へのサービスを充実させ、情報アクセスへの格差解消が進んだ。	○デジタル田園都市国家構想等で図書館に求められる「地域のリアルな交流とデジタルの相乗効果によるコミュニティ活動の活性化」を実現するための、電子書籍をはじめとしたDX推進が必要である。

【内部評価の基準】
 「A」：計画通り進行 「B」：概ね計画通りだが、一部未達成 「C」：あまり達成できていない
 「D」：全く達成できていない 「E」：完了・廃止（現在までに完了・廃止している場合）

III 施策の目標指標の達成状況

成果指標	H23	R4 (目標)	R4 (実績もしくは見込)	成果分析・評価など
1 生涯学習講座等の参加者数	613人	1,000人	589人	コロナ禍により人数制限があった講座もあり、参加者は少なくなっている。
2 市民館利用者数	300,000人	300,000人	268,000人	R1に308,000人となったが、その後コロナ禍でR2以降大きく減少し、R4は若干回復する見込み。
3 生涯学習ボランティア登録者数	31人	100人	-	生涯学習関係のイベントを行う際の託児ボランティア登録者数を計上していたが、他課の子育て事業の充実により託児ボランティアが解散したため、実績は無くなった。
4 市民実質利用率(人口に占める、年に1回以上図書館資料を借りた市民の割合)	20.2%	25.0%	13.9%	コロナ禍による利用減少もあるが、スマートフォンの保有率増加などによるライフスタイルの変化等により貸出冊数が減少した。

IV 市民評価（市民意識調査結果）

	H25	H28	R1	R4	増減 (H25→R4)
満足度	0.16	0.17	0.20	0.17	+0.01
重要度	0.38	0.36	0.39	0.40	+0.02

※回答結果を点数化（2点、1点、0点、-1点、-2点）して、その合計値を回答総数で割り、それぞれを得点化。

V 次期計画に向けた総括評価

達成状況	○「生涯学習振興計画」「田原市社会教育施設等長寿命化計画」「まち*ほん生涯読書振興計画」を策定・改定し、目標に対して進捗管理を行った。 ○令和元年度にふるさと教育センターを開設し、ふるさと教育の実施体制の充実に努めた。 ○図書館にて高齢者や障害者へのサービスを充実させ、情報アクセスへの格差解消が進んだ。
今後の課題	○少子高齢化により、様々な分野の情報提供者や活動者の減少が予想される。DXにより、例えば趣味の講座を教えたい先生と学びたい生徒がより簡単に繋がることができるような生涯学習情報提供システムなどのプラットフォームを提供したり、地域の学習コンテンツのオンライン化等を進め、今後人口が減っても質の高い生涯学習活動が行える環境を整備していく必要がある。

①改定版第1次田原市総合計画「施策評価シート」

I 施策の体系

施策コード	0503	施策名	スポーツの振興	主担当課	スポーツ課
分野	教育文化			関係課	生涯学習課
施策の目指す姿	○健康の増進や生きがい・仲間づくりとともに、活動を通じて礼節等を学ぶ機会として、いつでも、どこでも、だれでも、スポーツに親しむことができる環境整備を目指す。				

II 「主な取組（基本事業）」に対する評価

基本事業	内部評価	取組内容 (これまででできたこと・してきたこと)	課題 (できていないこと・今後しなければいけないこと)
1 スポーツ振興体制の充実	B	○スポーツ協会、スポーツ少年団への支援を行い、スポーツ教室やスポーツ大会を通してスポーツの喜びや楽しさを体験するとともに、技術の向上や仲間づくりの推進を図った。 ○健全なスポーツ振興を図るため、全国大会出場者へ激励金を支給した。	○スポーツ協会、スポーツ少年団ともに自主的な活動をする中で、会員数や団員数を確保するため、活動の充実を図ることが必要である。
2 スポーツ活動の推進	B	○身近な学校施設を地域の定期的なスポーツ活動の場所として市民に開放することにより、スポーツ活動の推進を図った。 ○スポーツギネス大会やウォーキング大会、ニュースポーツ大会を開催し、市民の誰もがスポーツを身近な環境で楽しめる機会を提供した。	○普段スポーツをする機会のない方や障がいのある方など、誰でも参加できるようにイベントを開催し、参加者を増加させる必要がある。
3 スポーツ施設の充実	B	○適正な維持管理に努め、計画的に修繕や長寿命化改修を実施した。	○スポーツ施設のうち、夜間照明灯が設置されている施設などは、早急にLED化を進めていく必要がある。

【内部評価の基準】
「A」：計画通り進行 「B」：概ね計画通りだが、一部未達成 「C」：あまり達成できていない
「D」：全く達成できていない 「E」：完了・廃止（現在までに完了・廃止している場合）

III 施策の目標指標の達成状況

成果指標	H23	R4 (目標)	R4 (実績もしくは見込)	成果分析・評価など
1 体育施設年間利用者数	313,255人	400,000人	272,000人	新型コロナの影響により、利用者が減少した。
2 市主催スポーツイベント参加者数	8,475人	10,000人	5,259人	新型コロナ感染拡大の影響もあり、イベント自体の中止や縮小開催となったものが多くあった。
3 体育協会加入者	4,264人	4,300人	1,982人	新型コロナ感染拡大が一因となり、会員が激減した。
4 全国大会等出場激励金交付者および団体	27人	50人	75人	多くの選手が全国大会等へ出場し、活躍した。

IV 市民評価（市民意識調査結果）

	H25	H28	R1	R4	増減（H25→R4）
満足度	0.12	0.08	0.09	0.05	△0.07
重要度	0.33	0.28	0.29	0.30	△0.03

※回答結果を点数化（2点、1点、0点、-1点、-2点）して、その合計値を回答総数で割り、それぞれを得点化。

V 次期計画に向けた総括評価

達成状況	OR2、R3年度と新型コロナ感染拡大の影響で多くのスポーツイベントを開催することができなかったが、R4はウィズコロナの中でコロナ前と同水準とまではいかなかったが、概ね開催することができた。 ○スポーツ協会やスポーツ少年団への支援を通じて技術の向上等の推進を図ることにより、全国大会へ出場し、活躍する選手が増加した。
今後の課題	○スポーツ協会、スポーツ少年団ともに自主的な活動をする中で、会員数や団員数を確保するため、活動の充実を図ることが課題である。 ○学校施設開放は、学校の統廃合による施設の減少を受け、施設の利用調整や公平な施設利用が課題である。

①改定版第1次田原市総合計画「施策評価シート」

I 施策の体系

施策コード	0504	施策名	青少年健全育成	主担当課	生涯学習課
分野	教育文化			関係課	
施策の目指す姿	○家庭・学校・地域・行政が連携し、青少年の健全育成を推進することにより、社会性を身につけた社会に貢献する人材の育成を目指します。				

II 「主な取組（基本事業）」に対する評価

基本事業	内部評価	取組内容 (これまででできたこと・してきたこと)	課題 (できていないこと・今後しなければいけないこと)
1 青少年健全育成の推進	B	○青少年健全育成推進協議会と生徒指導連絡協議会の情報交換を定期的実施した。 ○子ども・若者の支援として、関係機関や高等学校との情報交換を定期的実施した。 ○家庭教育啓発講演会・幼児教室等講演を開催した。	○青少年健全育成関係機関の連携体制を構築する必要がある。 ○子ども・若者の支援ネットワークの構築を図り、未然防止、早期発見、早期発見につなげる取組が必要である。 ○講演会などが未開催の学校・保育園・こども園へ開催の働きかけを行っていく必要がある。
【内部評価の基準】 「A」：計画通り進行 「D」：全く達成できていない 「B」：概ね計画通りだが、一部未達成 「E」：完了・廃止（現在までに完了・廃止している場合） 「C」：あまり達成できていない			

III 施策の目標指標の達成状況

成果指標	H23	R4 (目標)	R4 (実績もしくは見込)	成果分析・評価など
1 青少年の補導件数	207人	80人	103人	地域の見回りや学校での呼びかけ活動により、外出時の補導は少なくなっている。
2 家庭教育啓発講演会・幼児教室等講演開催回数	27回	50回	23回	小中学校や保育園の統合により対象施設数が減ったため、回数は減少している。
3 児童生徒文化体験教室参加者数	391人	400人	316人	児童生徒数の減少や新型コロナの影響により参加者数は減少している。

IV 市民評価（市民意識調査結果）

	H25	H28	R1	R4	増減（H25→R4）
満足度	0.08	0.06	0.09	0.05	△0.03
重要度	0.35	0.34	0.37	0.39	+0.04

※回答結果を点数化（2点、1点、0点、-1点、-2点）して、その合計値を回答総数で割り、それぞれを得点化。

V 次期計画に向けた総括評価

達成状況	○小・中学校、高等学校との情報交換を行い、連携の強化を図った。 ○子ども・若者の支援は、関係部署や関係機関、高等学校との連携を図った。 ○家庭教育啓発講演会・幼児教室等講演を開催した。
今後の課題	○青少年健全育成関係機関の連携体制を構築する必要がある。 ○子ども・若者の支援ネットワークの構築を図り、個々の置かれた状況に応じて相談・支援を進めるとともに、社会的な自立に向けて、幅広い取り組みが必要である。 ○子ども・若者にとって安心できる居場所は大変重要であり、子ども・若者の成長・活躍の土台となる居場所が確保されるよう、支援の周知を図る必要がある。 ○講演会などが未開催の学校・保育園・こども園へ開催の働きかけを行っていく必要がある。

①改定版第1次田原市総合計画「施策評価シート」

I 施策の体系

施策コード	0505	施策名	芸術文化の振興	主担当課	生涯学習課
分野	教育文化			関係課	文化財課、地域課
施策の目指す姿	○活動支援や芸術文化に触れることができる機会の提供により、団体や個人の主体的な芸術文化活動の振興を目指します。				

II 「主な取組（基本事業）」に対する評価

基本事業	内部評価	取組内容 (これまででできたこと・してきたこと)	課題 (できていないこと・今後しなければいけないこと)
1 芸術文化振興体制の充実	B	○文化協会活動の支援や文化教室、文化祭開催を行った。	○高齢化が進み、田原市文化協会の会員数は年々減少しているため、活動の維持について検討する必要がある。
2 芸術文化活動の推進	B	○文化ホール自主事業の開催やコンサート開催、ホール事業の支援を実施した。	○年々自主事業の助成予算を確保することが難しくなっており、助成事業に依存している状況であるため、コンサート等の開催回数が少なくなっている。また、参加者数は新型コロナの影響もあり減少している。
3 芸術文化施設の充実	B	○施設の適正な維持管理や利便性向上のため、計画的に改修工事等を実施した。	○文化ホールの吊物、照明、音響等の大型設備の老朽化が進んでいるが、更新工事には多額の費用を要するため、今後の施設のあり方を考慮しつつ、計画的に設備を更新していく必要がある。

【内部評価の基準】
「A」：計画通り進行
「B」：概ね計画通りだが、一部未達成
「C」：あまり達成できていない
「D」：全く達成できていない
「E」：完了・廃止（現在までに完了・廃止している場合）

III 施策の目標指標の達成状況

成果指標	H23	R4 (目標)	R4 (実績もしくは見込)	成果分析・評価など
1 文化協会加入者	2,154人	2,200人	836人	新型コロナや高齢化により減少した。
2 文化ホール事業参加者数（自主・共催事業）	2,688人	2,700人	2,250人	新型コロナや事業の開催数が減少したことにより、参加者は減少した。
3 市内3文化会館の年間利用者数	195千人	200千人	101千人	新型コロナ等により利用者数が減少した。

IV 市民評価（市民意識調査結果）

	H25	H28	R1	R4	増減（H25→R4）
満足度	0.08	0.07	0.10	0.07	△0.01
重要度	0.19	0.21	0.23	0.22	+0.03

※回答結果を点数化（2点、1点、0点、-1点、-2点）して、その合計値を回答総数で割り、それぞれを得点化。

V 次期計画に向けた総括評価

達成状況	○クラシックコンサートや歌舞伎、昭和の歌コンサート等、様々なホール事業を行い、芸術文化活動の推進を図った。 ○市民団体の企画を必要に応じてサポートしながらコンサート等を開催した。
今後の課題	○文化の継承や維持のため、文化協会新規加入者の増加を図る必要がある。新規加入者獲得の主な機会となる文化教室をより積極的にアピールしていく必要がある。 ○コンサートの集客率が低いため、市民のニーズに応じた事業の展開や広報の仕方を見直す必要がある。

①改定版第1次田原市総合計画「施策評価シート」

I 施策の体系

施策コード 分野	0506 教育文化	施策名	文化財の継承	主担当課 関係課	文化財課 地域課
施策の目指す姿	○文化財の保存・活用を図るとともに、市民に寄り添いながら歴史・文化の継承、文化財愛護精神の醸成を進め、歴史と伝統に紡がれた誇りあるまちづくりを目指します。				

II 「主な取組（基本事業）」に対する評価

基本事業	内部評価	取組内容 (これまででできたこと・してきたこと)	課題 (できていないこと・今後しなければいけないこと)
1 文化財の保護・活用の推進	B	○調査に基づき、国指定史跡瀨美古窯群（百々陶器窯跡・大アラコ古窯跡・東大寺瓦窯跡）保存活用計画を策定した。また、瀨美半島貝塚群報告書作成のための資料調査・整理を行った。 ○文化財資料のデジタル化を推進した。	○調査研究の継続と成果の公表を引き続き行っていく必要がある。 ○文化財資料の継続的なデジタル化を行っていく。
2 文化の継承の推進	A	○翻刻の成果に基づく田原藩日記、学芸員の研究成果である研究紀要、文化財を普及啓発するための文化財ガイドなどの発刊を行った。 ○文化財の保存活用を図るため、有形文化財の維持管理や公開、無形文化財の知識・技術等を有する担い手への支援を行った。	○引き続き資料の翻刻や研究成果の発表を行っていく。 ○文化財の担い手の育成は時間を要するため、継続的に行っていく必要がある。
3 文化財施設の充実	A	○博物館等で収藏品や調査研究の成果の公開を行った。 ○学芸員による企画展の展示解説や講座の実施、学校や各団体への講師派遣を行った。	○今後も企画展のほか、ふるさとの歴史をテーマとした展示を行い、郷土に根差した取組を行っていく必要がある。 ○学校のふるさと学習への講師派遣や資料提供により、ふるさとの自然や歴史を学ぶ機会を継続して提供していく必要がある。

【内部評価の基準】
「A」：計画通り進行
「B」：概ね計画通りだが、一部未達成
「C」：あまり達成できていない
「D」：全く達成できていない
「E」：完了・廃止（現在までに完了・廃止している場合）

III 施策の目標指標の達成状況

成果指標	H23	R4 (目標)	R4 (実績もしくは見込)	成果分析・評価など
1 施設利用者数（博物館、吉胡、民俗、瀨美資料館）	40,265人	55,000人	25,079人	新型コロナウイルスの影響により利用者数が大きく落ち込んだ。
2 文化財の指定	93件	104件	98件	指定候補案件の選定に時間を要し、指定件数が増えなかった。

IV 市民評価（市民意識調査結果）

	H25	H28	R1	R4	増減（H25→R4）
満足度	0.12	0.10	0.14	0.08	△0.04
重要度	0.21	0.27	0.23	0.22	+0.01

※回答結果を点数化（2点、1点、0点、-1点、-2点）して、その合計値を回答総数で割り、それぞれを得点化。

V 次期計画に向けた総括評価

達成状況	○博物館等で企画展のほか、ふるさとの歴史をテーマとするなど様々な展示を行い、社会教育の推進に取り組んだ。 ○調査・研究の成果として、国指定史跡瀨美古窯群（百々陶器窯跡・大アラコ古窯跡・東大寺瓦窯跡）保存活用計画、田原藩日記、研究紀要、文化財ガイドなどの発刊を行った。瀨美半島貝塚群報告書発刊に向けての調査・整理作業を行った。
今後の課題	○施設の老朽化が顕著になり、今後の展覧会開催に支障をきたす恐れがあるため、対応について検討する必要がある。 ○調査研究の成果をまとめ、発表・刊行するためには多大な時間と労力を要する。一方で博物館等での展示や施設管理も行わなければならないため、効率的な運用が必要となる。 ○文化財の継承・保全に携わる方々の高齢化や担い手不足が懸念されるため、ボランティアや市民団体といった社会全体による文化財のサポート体制構築が必要である。